

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(3ユニット／1階)

事業所番号	2791000157		
法人名	株式会社のだか		
事業所名	グループホームのだか西淀川		
所在地	大阪市西淀川区大和田5-21-7		
自己評価作成日	令和5年11月30日	評価結果市町村受理日	令和6年1月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階
訪問調査日	令和5年12月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>ようやくコロナ禍も落ち着きを見せてきたので、地域との交流を積極的に行っていきたい。また、終の棲家として相応しい場所になる様に努めている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、法人の15番目の施設として令和2年5月に新型コロナ流行初期に開設された新しい施設である。現管理者は、開設時より主任として勤務の後、9月より現職に就いているので職員とも利用者とも共に良好なコミュニケーションが取れていることを確認した。最近では職員のケアの質が向上し、安定してきており、利用者への対応も良くなってきているとの管理者の話もあったが、家族アンケートでも職員に対する多くの感謝の言葉が寄せられていた。フロアでも利用者や職員の楽しげな様子が何度となく見られた。コロナ禍が終息を迎えて最近では短時間ではあるが居室での家族との面会が再開されている。管理者から、これからは積極的に利用者との外出、近隣の幼稚園との交流、神社の祭りの参加などを行っていきたいと意欲的な話を聞くことができた。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

【本評価結果は、3ユニット総合の外部評価結果である】

自己評価および外部評価結果【3ユニット総合外部評価結果】1階

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	コロナ禍の中、地域密着型サービスの実施は制限されていたが、最近ようやく緩和してきた為、10月に運営推進会議を施設にて行う事が出来た。今後、地域との交流を深めていきたい。	開設時に事業所独自の理念を策定し、玄関や各フロアに掲示して周知を図っている。新入職員には入職時研修で事業所の理念を説明し理解を求めている。職員は日頃から掲示している理念を意識しながら日々のケアに当たっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現状出来ていないが、最近になって徐々に交流をし始めている。	事業所は、新型コロナの流行初期に開設されており、地域との交流は難しかったが地区の自治会には加入して地域の情報を回覧板で得ている。管理者は、コロナ禍が終息してきたので今後は近隣の神社の祭りに参加したり、幼稚園児との交流を図りたいとしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今後は運営推進会議を通じて活かしていきたい。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	10月に初めて施設での開催をしたところで、今後活かしていきたい。	開設以来、運営推進会議は書面のみを送付していたが、今年10月に初めての対面開催を行っている。地区民生委員、地域包括支援センター職員、利用者代表、管理者、本部担当職員が参加している。入居状況、職員状況、事故・ヒヤリハット、行事等の運営状況や今後の予定を報告し出席者からご意見や地域の情報等を得ている。	会議開催案内、会議議事録は家族や地域代表等にも送付して運営状況を伝達し、意見や要望を募ると共に会議に広く参加を呼びかけ、開かれた事業所運営が実現することを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	今後の課題である。	入居者の中には公的扶助受給者が多数おり西淀川区の生活支援担当職員とは、訪問を受けたり、管理者が電話連絡をしたり、常に連携を取っている。区の介護関連部署職員とは介護申請などで不明なことがあれば電話連絡をして聞いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会等を通じて職員への認識を深めており、拘束をしないケアに努めている。	事業所は、法人内共通の身体拘束・虐待予防指針、身体拘束廃止マニュアルを整備し、虐待防止・身体拘束適正化委員会を毎月末に開催している。身体拘束、虐待に関する研修を毎年2回実施している。玄関は、危険予防のため施錠をしている。入居者はフロア内は自由に動くことができる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	現在身体拘束を行っておらず、今後も拘束をしないケアに努める。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際は職員全てに浸透は出来ていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明に関しては、本社営業等含め、契約に臨んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者がご家族様とこまめにコンタクトを取り、意見をうかがう機会作りをしている。	入居者とは職員が常日頃から声かけを心がけて要望を聞いている。お好み焼きやカップラーメンなどを食べたいとの声やカラオケをしたいという声を聴いて実現している。家族には、毎月「のどか西淀川」新聞を届けて本人の様子を伝え、要望や意見は電話で管理者が聞いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議だけでなく、職員から管理者に質問しやすい関係性を築いている。	管理者は、職員との関係は良好で月1回のスタッフ会議や日常での会話から意見・要望を聞いて、解決策を話し合っている。職員は、ケア以外にも「のどか西淀川新聞」担当や行事担当などの各自の役割分担も持ち、運営に関わる機会を有し意見・提案を出している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ランク制度を使い、スキルアップに繋げる状況を整備している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職職員にはパートナーをあてがい、指導・コミュニケーションを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今後の課題である。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新入居者の対応は最初が肝心である事を職員に常に指導している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者と家族様が直接連絡できるような体制を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今後の課題である。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	フロアの雰囲気気に気を遣い、安心して過ごされる環境作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在は面会も実施しており、遠方の方には、オンライン面会を実施している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これからの課題である。	コロナ禍の中で家族面会を制限をしていたがリモート面会や電話取次の支援を行っている。友人や知人からの電話も取次いでいる。現在は、家族との居室での面会は30分間の制限付きであるが認めている。その時に近くへ散歩に出かけることも可能としているが買い物や外食はまだ禁止している。今年も職員は入居者に年賀状を出す支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が一緒になって、雑談等気軽に出来る雰囲気作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	実際そこまでには至っていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者とのコミュニケーションを通じてニーズの把握に努めている。また、本人の立場に立って考える事に重点を置いている。	職員は入居者と日常的にコミュニケーションをとり、その時々個々の要望を聞いている。入居者各々が、お皿拭きや洗濯畳を手伝ったり、カラオケや懐かしいドラマを楽しんだり、おしゃべりをしたりして思い思いの日々を暮らしている。重度化して思いを口に出せなくなった人には、これまでの好みや行動を推測して対応をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	各入居者の出身地や住んでいた所の話題を積極的に行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人個人の趣味・嗜好に合ったレクやワークを提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネ・看護師・管理者・職員で話し合う機会を持ち、プランに反映させる様に努めている。	計画作成担当の介護支援専門員は週2回勤務して、担当フロアの介護職員から入居者の状況を聞いたり、日々の介護支援記録、毎月のモニタリング、看護記録、医師の診療記録と所見を確認し、それを基に3か月ごとにアセスメントを行い介護計画を立てている。計画は、短期を6か月長期を1年を基本として立て、家族には郵送をして承諾を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	特変を共有する事で異変の早期発見、認知症症状の把握に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現状の課題である。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現状の課題である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	クリニックとは常に情報の共有と、連絡を密に行っている。	契約時にかかりつけ医について説明し、協力医療機関の医師に変更し、内科・精神科(随時)月2回訪問診療を受けている。現在クリニック2ヶ所に利用者を振り分けている。訪問看護師の月1回の健康管理、歯科医・歯科衛生士の訪問診療を受けている。看護師は法人本部へ利用者の健康状態を報告している。薬剤師による服薬管理も実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と職員との相談は気軽に行える状態を作れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中の情報のやり取りはこまめに行う様心掛けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状況に応じて医療との連携と家族様との情報共有に心掛けている。	職員は、契約時に利用者・家族に重度化や看取りに伴う意志確認し、事業所が対応し得る最大のケアについて説明している。重度化の時点で再度医師・看護師・利用者家族・施設長で話し合い、連携をとり、随時意思確認しながら取り組んでいる。医師・看護師による24時間オンコール体制の確立、また開設時より、3例の看取りを体験している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に勉強会等を通じて常に意識づけを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自施設のみでの訓練になっており、地域との協力体制構築はこれからの課題である。	消防避難訓練は消防士の指導のもと年2回(日中・夜間想定)実施している。災害マニュアル連絡網・役割分担を整備しハザードマップの確認している。独自に水害訓練も実施している。避難場所・避難経路の確認・消火器の使い方など定期的にも実施している。スプリンクラー・自動警報器装置など設置している。事業継続計画(BCP)も完備している。	災害は昼夜を問わず何時起きるか分からない。そのためにも運営推進会議・地域の行事交流時に協力の依頼をするなど、地域住民との協力体制を構築することを望む。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけでの虐待について勉強会で研修を行っている。	年間研修計画を立て「虐待について」研修を実施し、マニュアルも作成している。チェックシートを作成して日々の行動や言葉遣いをチェックし、研修会・勉強会などで事例を取り上げて、注意喚起を促している。利用者にも自己決定しやすい言葉かけをするように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	決めつけた声かけでなく、選択肢のある声かけを行うように指導している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の価値観を押し付けるのではなく、入居者様を軸に考えた介助を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性の入居者様にマニキュアや化粧等のレクを行っている。男性は髭剃りの促し、手伝いを行い、身だしなみを習慣づけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な方には、台所の手伝いに参加して頂き、役割を持てる援助を行っている。	食事は職員がご飯・味噌汁を調理して、副食は給食業者よりクックパッド・献立表ともに配送され湯せんして、配膳している。利用者も可能な方は手伝ってもらい、役割を持てるように援助を行っている。年間の行事食は敬老会・クリスマス会・お正月とし、誕生会や利用者の要望に答えて手作りケーキ・お好み焼き・たこ焼きを提供している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日頃より各入居者様の状況に注意を払い、その方に合った提供方法に心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアが負担なく習慣として行える様に援助する事を心掛けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	可能な限りトイレでの排泄を援助している。また、適切な声かけを行っている。	個々の生活記録を用いて、一人ひとりの排泄パターンの把握に努めている。ほとんどの利用者が自立トイレにて排泄をし、絶えず声掛けをして意思の疎通を図り、支援に努めている。27名の利用者の中2名だけオムツ使用で継続してその状態が続くように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動の促しと、水分の促しを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	目安は作っているが、入居者の希望・体調に応じて入浴を変更したり柔軟に対応している。	利用者の体調・本人の意向を尊重しながら入浴支援を行っている。入浴は週2回午前中としている。入浴拒否の利用者には無理強いせず、時間・日を変えて柔軟に対応している。毎回お湯を交換し、入浴剤や柚湯・菖蒲湯などを行っている。重度の利用者には2人体制で介助している。利用者の意向に沿うように同性介助に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	快適に過ごされる環境を整える事に気を配っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬に対する知識も指導の一環として、看護師と連携し行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ようやくコロナ禍が落ち着いたので、散歩を積極的に行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現状は施設周辺のみで実施している、今後は範囲を広げていきたい。	法人本部の意向で、コロナ禍のため建物外の外出は今の所途絶えているが、許可が出れば、お花見・ドライブ・お墓参り・友人知人との散歩・食事レクレーションなど利用者と共に行動したいと抱負を語っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現状行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様からの電話の取次ぎを実施している。また、正月には年賀状を記入して頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアに季節に応じた飾り付けを入居者様と創作している。	対面式キッチンの食堂兼リビングには大きなテーブルが配置され、壁や室内には季節感を取り入れた飾り物や利用者・職員の創作品が飾られている。毎朝職員が清掃し、廊下・トイレ・浴室の共同空間は清潔に保たれ、換気・温度・湿度に気を付けて不快な臭い、感染症などに気を配っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様の相性に応じて出来る限り席の配置を考えている。時にはソファーと一緒に座って頂いたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内はリスクを低減しながら、本人様の好みのスタイルに近い状態に援助している。	居室には備え付けのクローゼット・エアコン・カーテン・ベッド・ナースコールなどが設置され、また、煙感知器・スプリンクラーも設備され、安心安全な居室が提供されている。居室入口は一人ひとり表札が掲示されている。家族の協力を得て、人形・テレビ・仏壇・誕生日プレゼントの花束などが飾られて、その人らしい従来の生活が継続された居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	過干渉にならない様に留意し最低限必要な援助のみ行う様にしている。		